

2014年回顧①入院生活

2014年は退職後、初めて体調を崩し入院生活を余儀なくされ、山里暮らしは苦難に満ちた？年となりました。2014年新春を迎え成田山への初詣の際、「運勢表」を何時に無く眺めていましたが、今、思い起こしますと●印の真っ黒運勢であったなと記憶が蘇ります。

その真っ黒●悪夢は、突然やってきました。(病名は伏せておきます。)

田植えが終わった5月3日頃から、自覚症状が出始め、隣町の病院に飛び込んで第一回目の緊急手術を終えたのが5月17日。その後、通院生活を続け本格治療の為、7月15日に入院・手術治療を受け、翌月16日まで一ヶ月の入院生活となりました。

この病院は、小生山里の隣町にあり、とても古く木曾川沿いに木曾ヒノキを川で伊勢湾に運ぶ川港で栄えた岐阜県八百津町にあります。入院生活と言っても体自体はいたって健康でしたので、病院の周りを散歩を兼ねて近くの神社仏閣を巡りました。

松愛会支部行事に「史跡巡り」があります。この古い町にも宮本武蔵が修業したお寺、滝に打たれた修業場などの史跡や美しい棚田等入院生活を忘れさせる場所がありました。

散歩がてら訪れた史跡の一部をご紹介します。



木曾川の川港で栄えた、岐阜県八百津町。木曾ヒノキの集荷場でもあり、往年の歴史を感じさせる町です。現在は、関西電力の発電用ダムで木曾川の流れもゆったりしています。

<徒歩30分の新八百津橋から>



大仙寺の近くの「善恵寺」。自然石を組み合わせ隙間無く積上げられています。小生も棚田の石積み作業をしていますので興味が沸きます。後花園天皇の勅願寺で由緒あるお寺です。

<徒歩15分の善恵寺>

八百津町には宮本武蔵伝説があちこちに史跡として残っています。京都で修業していた武蔵は、沢庵和尚に「禅の極意は愚堂に習え」と美濃へ行けと諭されます。愚堂は「大仙寺」の住職で、境内には、武蔵が座禅を組んだとされる石がありました。

<徒歩10分の大仙寺>



武蔵が修業した「円明の滝」「二天の滝」と落差80mの「一、二、三の滝」を合わせて「五宝滝」と呼ばれ、太鼓橋など岩場を1kmの周回コースは絶景です。

<徒歩1時間半の五宝滝>



人口一万人の八百津町。入院中に夏祭りがあり、花火や屋台が出てこの夜は大賑わいでした。

<商店街の夏祭り風景>



全国棚田百選に登録されている「上代田棚田」です。退院が決まった八月のある日、出かけてきました。棚田には「オーナ制度」もあり、幾つかのオーナさんの名札が掲げてありました。

<バス20分徒歩10分の上代田>